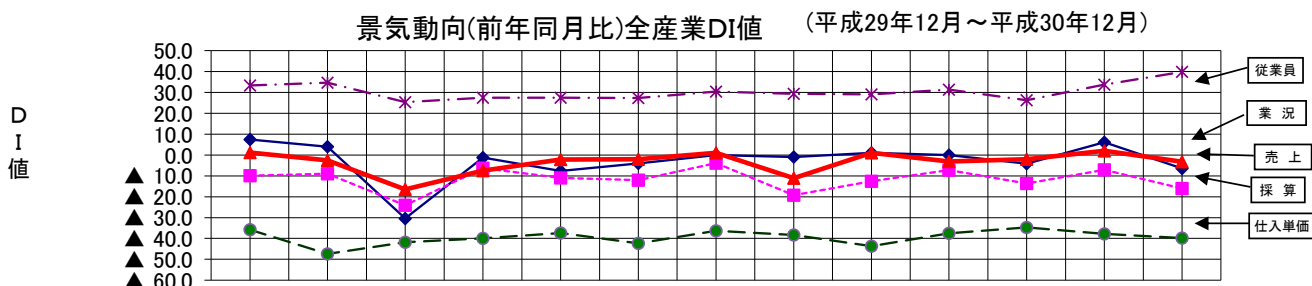


早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 12月分

【12月の概要】 景況感は一進一退、先行きは再び慎重な見方

11月に比べると、売上DIと業況DIはプラスからマイナスに転じた。採算DIと仕入単価DIもマイナス幅が増加している。従業員DIのプラス幅は増加した。原材料費など仕入コスト増と深刻な人手不足が業況改善の足かせとなっており、景況感は一進一退の動きとなっている。

先行きについては、11月に比べ、売上DIと業況DIはプラスからマイナスに転じた。仕入単価DIのマイナス幅はほとんど変動はないが、採算DIもマイナス幅が増加している。従業員DIのプラス幅は増加した。業況改善の期待感が高まるものの、先行きの不透明感から、景況好転には再び慎重の見方が広がりつつある。



	平成29年 12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	平成30年 12月
◆ 売上	7.4	3.9	▲ 30.4	▲ 1.3	▲ 7.7	▲ 4.0	0.0	▲ 1.0	1.0	0.0	▲ 4.2	6.1	▲ 6.5
■ 採算	▲ 9.9	▲ 9.0	▲ 24.1	▲ 6.3	▲ 11.0	▲ 12.1	▲ 3.9	▲ 19.2	▲ 12.6	▲ 7.3	▲ 13.7	▲ 7.1	▲ 16.1
▲ 業況	1.2	▲ 2.6	▲ 16.5	▲ 7.5	▲ 2.2	▲ 2.0	1.0	▲ 11.1	1.0	▲ 3.1	▲ 2.1	2.0	▲ 3.2
● 仕入単価	▲ 35.8	▲ 47.4	▲ 41.8	▲ 40.0	▲ 37.4	▲ 42.4	▲ 36.3	▲ 38.4	▲ 43.7	▲ 37.5	▲ 34.7	▲ 37.8	▲ 39.8
* 従業員	33.3	34.6	25.3	27.5	27.5	27.3	30.4	29.3	29.1	31.3	26.3	33.7	39.8

【全産業平均DI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合)

売上DIはプラスからマイナス6.5ポイントに転じ、業況DIもプラスからマイナス3.2ポイントに転じた。採算DIは9.0ポイントマイナス幅が増加し、仕入単価DIは2.0ポイントマイナス幅が増加した。従業員DIは6.1ポイントプラス幅が増加した。

全産業平均DI - 向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	仕入単価	従業員	業況
11月	5.1	▲ 8.2	▲ 29.6	27.6	2.0
12月	▲ 6.5	▲ 12.9	▲ 29.0	29.0	▲ 6.5

先行きは、売上DIはプラスからマイナス6.5ポイントに転じ、業況DIもプラスからマイナス6.5ポイントに転じた。採算DIは4.7ポイントマイナス幅が増加した。仕入単価DIは0.6ポイントマイナス幅が減少した。従業員DIは1.4ポイントプラス幅が増加した。

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	建築設計	人材不足で工事の進行が遅れている。
	設備工事	売上の増加に伴い採算は改善している。
製造業	機械部品	フル操業が継続しているが、受注は減少傾向にある。
	鉄工	首都圏の需要は旺盛で2年程度の受注目途が立っている。県内の景況感も良好で推移している。
卸売業	日用雑貨	季節性の高い商品の動きが鈍い。
	建築材料	年末を迎え、冬季工事「休工」もあって、来春まで土木資材は受注件数が減少の見込み。
小売業	生花	12月に入って売上の動きが鈍くなり、後半に期待したい。1～2月は行事的に少なく期待は薄い。
サービス業	運輸	採算面は燃料費の高騰や外注費の増加により悪化を見込む。
	ホテル	前年に比べ婚礼宴会の受注が減少している。
	ビル管理	採算では利益率にあまり変化はないが、増収効果で利益も若干増えている。